

2009年8月23日(日)

9:20 ~ 9:30 a.m.

CRT 栃木放送両毛支局にて収録

先生の条件とは何かを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

今回は、先生の条件とは何かを考えたい。

2. 先生の条件とは何か

(1) **前提1** 教育の質とは何か

カリキュラムの質

先生の質

マネジメントの質

* 自らの力で質のよいカリキュラムをつくり上げることができること、および学校やクラス、学習者の集団をマネジメントできることも先生の質に含まれる。

(2) **前提2** 教育成果を決定する要因

(学習者)本人の自覚

先生の力量

* (学習者)本人の自覚を促すことができることも先生の力量に含まれる。

(3) 声が大きいこと

声があまりにも小さいと、学習者である児童・生徒・学生にまで先生のことばが伝わらないからです。

(4) 体力があること

教育は、たとえ教科教育であっても強い体力が求められるからです。

(5) 子ども好きであること(児童・生徒・学生が大好きであること)、教えることが大好きであること

子どもが嫌いであったり、教えることが苦手である人は、先生には全く向かない。

「この子をどうにかしてあげようという熱い気持ち、情熱が教育」と考える。

(6) 研究熱心であること

教科(学科)の授業でも、教科以外の教育活動(つまり、学校行事やクラスでの活動、部活動、クラブ活動、生徒会活動、掃除など教科以外の学校での活動のすべて)であっても、すべて教育と考え、その質を高めるために研究に研究を重ね、万全の準備をすることが求められます。毎日すべての授業について、どのようにその日の授業を組み立てるか、「授業の設計」をする。予め詳細な授業プランを毎日つくり上げ、簡単な形でもよいから文章化しておくこと。

(ア)これを「教案(教える案)」「レッスン・プラン」と言う。

レッスン・プランを毎授業書き続けること。

(イ)レッスン・プランに基づき授業を展開すること。

授業中の児童・生徒・学生の発言や質問は、できるだけ詳細にレッスン・プランにメモをしておくこと。

(ウ)授業後は、その日の授業をふりかえる(リフレクション)こと。ふりかえた内容はレッスン・プランに赤で書き残し、授業改善に用いること。

このようにしてつくられた「レッスン・プラン」は、積み重なると数年後に「先生としての成長の記録」になる。

「レッスン・プランは先生としての成長の記録」

3. おわりに - よい先生になるために一生勉強し続けること -

(1)先生としての基本的な知識・情報・技術だけは毎日学び続けること。アップデートし続けること。

(2)自分のことよりは、児童・生徒・学生の教育を考えること(優先すること)。あらゆることの中に児童・生徒・学生をおくべき。

(3)大学の先生の条件

大衆化した大学においては、自分は大学の先生であるからといって研究ばかりしてはならない。

目の前にいる大学生をどうにかしなければならぬと考えて、自分のもつ半分以上のエネルギーを学生の教育に注がなければならない。

自分の研究のみに関心があり学生の教育に関心がない人は、大学で教えない方がよい。

- 2009年8月23日記 -
(2009年12月3日訂正)